

報告事項ア

令和7年度韓国江原特別自治道への訪問団派遣概要について

令和7年度韓国江原特別自治道への訪問団派遣概要について、別紙のとおり報告します。

令和7年11月19日

鳥取県教育委員会教育長 足羽英樹

令和7年度韓国江原特別自治道への訪問団派遣概要について

令和7年11月19日
教育総務課
小中学校課
高等学校課

今年度は、鳥取県教育委員会と韓国江原特別自治道教育庁が「姉妹結縁協定」を締結してから30年となる節目の年であり、10月26日(日)から10月30日(木)にかけて、教育長を団長とした訪問団を派遣し、記念式典への参加、生徒及び教員交流等を実施しましたので報告します。

1 派遣の概要

- (1) 目的 学校及び教育関係施設を訪問し、教育問題等について意見交換を行うことで、相互理解と友好を深め、交流の促進を図るとともに、国際理解教育をはじめとする本県教育の向上に資する。
- (2) 日時 令和7年10月26日(日)～10月30日(木)
- (3) 訪問団 県教育委員会 5名(教育長(団長)、事務局職員)
(36名) 県立高校生徒 20名(八頭高、米子高、米子南高、境高)
教員 10名(小・中・特別支援・高)
県国際交流員 1名 ※別に通訳2名
- (4) 日程(派遣内容)

日付	内容
10月26日(日)	米子鬼太郎空港—韓国仁川空港
10月27日(月)	友好交流30周年記念行事参加 春川三岳山湖視察
10月28日(火)	学校訪問(授業参観、生徒及び教員交流、ワークショップ) ・襄陽(ヤンヤン)高校、雪嶽(ソラク)高校 洛山寺視察 国際教育院訪問(ワークショップ)
10月29日(水)	進路教育院訪問(授業体験含む) 烏竹軒(市立博物館)訪問(韓服体験含む)
10月30日(木)	韓国仁川空港—関西国際空港

2 交流等の概要

○30周年記念式典(10月27日)



鳥取県教育委員会と江原道教育庁との交流30周年記念式典が開催された。江原道の教育内容の紹介や子どもたちの郷土芸能の披露、両国の高校生の発表などが催された。教育長と江原道教育監とのお互いの教育施策にかかる意見交換などが行われ、信頼関係を構築し、今後の交流継続・推進につながるものとなった。

○学校訪問(10月28日)



雪嶽(ソラク)高校(米子、境)



襄陽(ヤンヤン)高校(八頭、米南)

学校訪問を行い、授業参観、交流会、給食体験等を行った。生徒は江原道の生徒とバディを組み、終始共に行動することで、韓国の教育、生活様式を知り、様々な手段を用いてコミュニケーションを取る貴重な機会となったとともに、友情を深めることができた。また、施設・設備は充実しており、地域に愛着を持つ、社会の変化に応じた授業改善が大事など、本県の教育方針に通ずる面も確認できた。

○国際教育院訪問（10月28日）



子どもたちや先生、市民を対象に、国際理解教育、外国語教育、SDGs等にかかる学習機会を提供する国際教育院を訪問した。

国際交流員による生徒交流プログラムや、ICTを活用した授業づくりの講演、本県の教員と江原道の日本語担当教員との意見交換など、韓国の教育等について学ぶ貴重な機会となった。

○進路教育院訪問、烏竹軒見学（韓服体験）（10月29日）



子どもたちが様々な職業を体験し、学校の進路教育、進路相談をサポートする進路教育院を訪問した。生徒は、施設見学の他、ドローン製作、電子工作製作体験等を行った。

また、韓国の紙幣にも描かれている偉人の生誕の地、博物館を訪問するとともに、韓服体験を行った。

3 生徒及び教職員の感想

（生徒）

○初めて韓国を訪問して、韓国語の授業で学んだことを実践できました。韓国の高校生との会話はもちろんですが、以前授業で先生に教えてもらったユンノリ（双六のようなもの）を韓国の高校生とやったり、買い物をするときには会話を実践でき、自分の韓国語が通じた時は本当に嬉しかったです。韓国は人と人の距離が近く、みなさんがとても優しく接してくれたのが印象に残っています。今回、韓国で学んだことを友人に伝え、これからも韓国語や文化について学んでいこうと思います。

○3日目は、江原特別自治道のバディの生徒とほぼ1日一緒にいて、とても優しく接してくれたので嬉しかったです。学校訪問の段階ですでに仲良くなったけど、ワークショップを通してお互いのことをさらに色々知ることができました。また、日本と韓国の縁起物は似ているなど、文化について知ることができたのも良かったです。「あと1か月はここにいたい」と思えるぐらい、充実した体験ができました。

（教職員）

○高校を訪問して、ふるさとキャリア教育と同じ考え方で、地域でも県外でも世界でも活躍する生徒の育成に努めておられました。Think Global Act Local の視点の大切さを改めて学びました。また、ICT講義の最後のスライドに『人と人のつながり』と書かれていました。機器がいくら進歩しても使う際には必ず相手がいます。相手の気持ちを考えてICTを活用する大切さを学びました。

今回の唯一無二の経験を町と江原道との交流に活かしたいと思います。

○記念式典の緊張感と温かさ、高校での校長先生のお話、ICTの講義、日本語の先生方とのワークショップ、進路教育院の施設の素晴らしさなど、全てが学びと刺激になりました。特に日韓の生徒同士が積極的にコミュニケーションを取り、友好を深める姿を目の当たりにし、やはり相手に伝えたいという気持ち、相手を分かりたいという気持ちが1番大切なんだと改めて感じました。今回の経験を生徒、先生方等に還元できるように頑張ります。

4 その他

来年度も、鳥取県教育委員会と韓国江原特別自治道教育庁が「姉妹結縁協定」に基づき、江原道側からの訪問がある見込み。